

外国ルーツの人どう支援

外国にルーツを持ち、生きつらさを抱える人たちに支える方法を模索しよう
とNPO法人「愛伝舎」(四日市市)などが28日、津市のアスト津で研究事
業の報告会を開いた。県内各地から、外国人支援に関わる人や行政関係者の約
30人が参加。効果的なかわり方などについて意見を交わした。(塩生衣菜)

事業は愛伝舎が中心となり、20
21〜24年度に実施された。外国籍
の子どもは発達にまつわる相談に
のる団体や、不登校の子どもを支
援する団体などと共に、定住外国人
の子育て支援などについて調査や研
究をしてきた。

愛伝舎の坂本久海子理事長(63)に

よれば、家族と共に来日する外国人
労働者が増えている一方、家族や子
どもへの支援がまだ十分でなく、経
済的、精神的に不安定な生活を送っ
ている人もいるという。坂本さん
は、外国人労働者の誘致を進めるだ
けでなく、「雇用部門と教育・福祉
部門とが連携した政策をしてほし
い」と行政の支援の必要性を訴え
た。

子どもの発達支援に取り組む「家
庭教育研究会(ターファCE)」(鈴
鹿市)は、外国にルーツを持つ若者
らが感じる自己の個性の揺らぎか、
心の健康に影響を及ぼすとの研究か
ら、若者の自己肯定感を上げるた
めのワークショップを実施。工作や
短歌作りなどを通じ、自己肯定感が

四日市の「愛伝舎」など津で研究事業の報告会

少しづつ上がったことから、「思春
期に悩みを打ち明けられる場所や仲
間が必要」と結語づけた。



事業の報告をする坂本さん(左か
ら2人目)＝津市のアスト津で